

モンゴル国立大学・名古屋大学レジリエンス共同研究センター開所式を挙

●減災連携研究センター、大学院環境学研究科

減災連携研究センター及び大学院環境学研究科は、2月20日(土)、モンゴル国立大学においてモンゴル国立大学・名古屋大学レジリエンス共同研究センターの開所式を挙りました。同センターの設立は2年前の両大学間の協力合意が端緒となり、その後、減災連携研究センター、環境学研究科を中心にモンゴル国立大学と議論を重ね今回の覚書



記念撮影

締結にいたりました。

レジリエンスとは、災害や事件からしなやかに立ち直る力を意味し、サステナビリティと並ぶ重要な概念として国連等もその実現を今後の課題としています。モンゴルや日本など多くの国は、未解決の自然災害問題、地球環境及び都市問題に直面し、レジリエンスの観点から今後の社会構造・国土構造のあり方を検討する必要に迫られています。また文化や伝統を尊重して、民族固有の生きる力を見直すことも重要となります。

同センターは国際共同研究の成果に基づいて、こうしたレジリエンスを高めるための総合的方策のあり方を学際的あるいは超学際的に議論し、その実現を支える人材育成につなげることを目指し、関係省庁や国際機関からも多くの期待を集めています。

開所式には、本学から市橋理事、磯田アジアサテライトキャンパス学院長、神沢環境学研究科長をはじめ約25名、モンゴル側からはモンゴル国立大学のバートルガ・スヘー学部長、バドラル・トゥブシン危機管理庁長官ら約30名が参加しました。厳粛なセレモニーが進行される中で、早速、レジリエンスの概念と改善策に関する本質的な議論も始まりました。

大学教育改革フォーラム in 東海 2016を開催

●高等教育研究センター

高等教育研究センターでは、3月12日(土)、愛知大学名古屋キャンパスにおいて、「大学教育改革フォーラム in 東海 2016」を開催しました。今回は、同センターによる企画運営における支援のもと、東海地区の中小規模私立大学の教職員による実行委員会が開催する形式となり、やや規模を縮小しての開催となったものの、東海地区を中心に



分科会での議論の様子

300名の参加がありました。当日は、大学入試センターの大塚雄作氏による基調講演「高校と大学の双方が信頼できる高大接続のあり方」のほか、10の分科会とポスターセッションがあり、活発な議論が交わされました。

基調講演では、社会の耳目を集める入試改革の動向を中心に議論が進められ、検討中の新たな共通試験が抱える実行可能性や費用面での課題が指摘されました。その上で、現行入試の長所をふまえながら、よりよい形態を模索することの重要性について議論が交わされました。

分科会は、「今、大学の中で職員は何をなすべきか」、「大学を中心とした有機的地域連携」、「物理学講義実験から体験学習への発展の可能性を探る」、「ラーニングコモンズを活用した学習」、「大学図書館と地域連携」、「高大接続」、「IRと経営改善」、「グローバル人材育成」、「学生が学ぶ授業運営の工夫」及び「学生の学びと大学図書館における展示活動」の10テーマに沿って進められました。同センターでは今後もボランティア教職員による実行委員会を支援し、東海地域の大学教育の質向上へ貢献していきます。

第63回 NUMCo を開催

●博物館



コンサートの様子

博物館では、2月27日(土)、第63回 NUMCo を開催しました。今回は、小林美保氏、竹中幹子氏によるウクレレデュオ「Yeh ☆`ie」による演奏が行われました。演奏は「フラガール (映画フラガールより)」から始まり、「銀河鉄道999」、オリジナル曲の「ソラノロード」や「Tokada」などアンコールも含め、全10曲が披露され、本格的なウクレレの演奏を聴くのは初めてという方も演奏に聞き入り、特に「Tokada」では、クラシックギターと聞き違えるような演奏テクニックで聴衆は魅了されました。また、「ワイキキ」、「花は咲く」の2曲は、千田初子氏によるフラダンスも披露されました。さらに今回は、吹き抜けを使った3階からの登場など後列の方でも楽しめる演出も見られました。また、一昨年から始めた演奏終了後に、各自で行うイスの片付けもリピーターを中心にスムーズに行われるようになりました。当初は心配していた怪我や混乱もなく、博物館コンサートに定着しつつあります。

第64回 NUMCo を開催

●博物館



コンサートの様子

博物館では、3月5日(土)、第64回 NUMCo「博物館がjazzyになる」を開催しました。今回は長谷川智則氏(サクソ)、牧野伸太郎氏(ベース)、西 彩子氏(ボーカル)、松永有希子氏(キーボード)、関野 勇氏(ドラム)の5名によるジャズコンサートが行われました。軽音楽部エーデルレーテジャズオーケストラのOBである長谷川氏が、ライブハウス等で活躍するミュージシャンや軽音楽部OBに呼びかけて結成したバンドです。同館での演奏は3回目となり、今回は、「Smile」、「海に見える街」、「さくら」、「Take Five」など馴染みのある曲をはじめとする全11曲が披露されました。満席となった237名の聴衆も十分満喫し、「楽しかった」、「今度はいつあるのか」、「次回も期待するよ」などの声が寄せられました。2001年から始まったナムコの愛称を持つ博物館コンサートですが、昨年度は5回開催し、通算64回となりました。今年度も引き続き開催いたしますのでぜひご来館ください。

第118回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演を行う畑村工学院大学教授

減災連携研究センターは2月25日(木)、減災館1階減災ホールにおいて、第118回防災アカデミーを開催しました。今回は、株式会社畑村創造工学研究所代表で、東京大学名誉教授である畑村洋太郎工学院大学教授による講演「津波と真の対策を考える」が行われ、111名の参加がありました。畑村教授は2002年にNPO 法人失敗学会を設立されるなど、多方面で失敗知識活用活動を展開されています。

畑村氏は講演で、津波対策の切り札としての各地での防潮堤計画・建設に触れ、「防潮堤」という名称は津波を完全に遮断するという考えからきており、低い防潮堤では役に立たない考える人が多いが、防潮堤の真の役割は越流する津波を減じ、その威力を減殺して避難の時間を稼ぐことにあると解説がされました。そして、東日本大震災の現地調査結果を踏まえ失敗学の立場からこれからの減災策として、この「減潮堤」と「避難」を組み合わせた津波への対応策を提案されました。